



卒業論文要旨

昭和35年度卒業生

長井盆地の自然地理学的考察

井上 玲子

○目的と研究地域

その地形がいかなる環境の下でいかなる *process* で形成されたのであるか、幼き地理学者の我であるが、自然地理に興味をもちその地形発達の研究意欲にかりたてられ、学者の未踏査地域を我流でも良し調査のまねごとでよしとやってみる意義を見い出したわけであつた。この様な条件下に選定されたのが、郷里の長井盆地でありその形成 *process* さらにその *process* 上の現在の位置を考察し、加えてその形成を窓に結びつく自然環境に制約されている農業の冷水害問題にも波及したのである。

○方法

1. 地形発達

1. 航空写真による地形区分を基本とし現地踏査を、地形表尺勘測より考察、河岸 *terrace* の比高対比、周囲山地の傾斜に注意を向ける。
2. 論の進め方として平面、立体の両形態を前者、後者の順に系統だてて論じた。

2. 冷水害問題

1の地形発達によりその生成が明らかにされたわけであるが、この下に生まれる土地利用関係はどのように制約され、どのように解決しているのかとまず土性を明らかとし、他の地区（普通といわれる）とか極端な地といわれる地区と比較対称しつつこの *field* の土的性格を明らかとしその対策がいかに講じられ進展の具合はいかであり今後の見通しはどうであるのか、

- 1 現状
- 2 他との比較
- 3 対策
- 4 対策への考察
- 5 今後の見通し

といった趣旨、絡結を念頭におきあく迄

1. 自然（地形、地理）との関連に重点をおいた見方をはなれないように心がけ

2. 他地区との比較において考察し
3. その対策に論及したわけである。

現状のままでいいのかも忘れなくなかつたわけである。

○ 結 果

1. 地形発達

長井盆地の中心(位置的)をなす野川 fan は関東平野の如く depression をなす盆地の中心であること、つまり長井盆地は少くとも近い過去における遠 depression の運動をつづけており、その中心にあたる、(movement)の野川 fan はしたがって *composit fan* を形成することを余儀なくされていたことが考えられた。(2本の *spring rise*) さらに南北には岩川に向つて傾く *river terrace* が存在し、盆地の面縁を形成する羽丘丘陵南端部にみられた *tertiary* の地層は明らかに盆地に向つて下向(30~40°)している事実。

上述の *terrace* 中北岸のそれは、野川 fan 下に没した形に南端において消失しているのである。

○要するに一口に云つて長井盆地は depression の形成物である、ことがわかつた。ただしその全過程ではなく *fault movement* が重要な時期もあつたようである。

2. 土地利用

県下 1, 2 の冷水害地帯に上げられるこの地区は、県下の地質図でも明らかな如く、朝日山地の花崗岩山地より流下する河川により形成されている花崗岩砂礫 fan であり、その土性においても又急傾斜で流下するといった吳の上でも黒郡 fan と多くの類似吳をもつ川であつた。その反収においても黙つてはみのがせぬ差 (*fan head* と扇端で) がみられ、この花崗岩砂礫上においては耕土培養などでは生めるし、泥客土を急ぐ必要性が各氏の研究から明確化されつつあることと合わせた、論をすすめて結論に導いたのである。

○ 感 想

我流であれ納得のいく論法で進展させ結論にみちびくことができたことに満足をおぼえている。自分は結果よりその *process* を重んずる性格ではあるがその結論にも満され、そのむくいをおじわつた次第である。

學者の研究物の無い地を送定したことにこのさいやりがいを感じている。